

笑顔あふれる学校

Smiling School 勝央中



勝央中学校 HP はこちら→ <http://gakuji.town.shoo.lg.jp/shoo-mh/>

勝央中学校だより No.14

令和6年3月12日(火)

勝央町立勝央中学校長

浦島 毅

TEL: 38-3148

3年生の皆さん御卒業おめでとう ございます

令和五年度卒業証書授与式 式辞(抜粋)



○ただいま、卒業証書を授与しました108名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

みなさんが手にした卒業証書には仲間とともに過ごした様々な思い出が刻み込まれており、かけがえのない中学校三年間の重みを感じていることと思います。

○さて、みなさんとの勝央中学校職員としての出会いは、小学6年生の3学期、入学説明会・中学校見学会でした。先生や先輩の話の前めに聞く姿に中学校での3年間を充実させたいという思いを強く感じました。「4月の入学を待っています」と皆さんに伝えましたが、皆さんの入学とともに私は転勤となりました。その2年後、まさか中学3年生になった皆さんにここ勝央中学校で、再会するとは想像すらできませんでした。しかし、出会いについて私はこう思います。「偶然の出会いとよく言われますが、出会いは必然である。必要な出会いは、一瞬早すぎず、一瞬遅すぎず訪れる。」この言葉を大切にしてきました。この勝央中学校での出会いの全てが、別れの時に必然だったと言える日々になるように」と。先生たちとスクラムを組み、みなさんを見守ってきました。

○しかし、皆さんの学校生活は、順風満帆ではありませんでした・・・。

皆さんが小学校5年生を終えようとしていた4年前、新型コロナウイルス感染症により世界が一変してしまいました。中学入学後も楽しみにしていた多くの学校行事や大会が中止、または規模縮小となりました。今年度に入りさまざまな活動制限も緩和され、コロナ前の学校に戻りつつありますが、青春の多感な時期に本来当たり前前にできた経験ができなくなり、それらの経験から生まれる思い出も、つくることができませんでした。



○また、1月1日に起きた震災により、能登半島では、現在も避難生活を送られている方もいらっしゃると思います。改めて、何事もなく「おはよう」で始まり、「さようなら・また明日」で終える学校生活をはじめ、「当たり前」のありがたさを再確認する毎日です。

○しかし、皆さんはいつでも、「できないことに不満をもらすのではなく、できることをどうみんなで楽しむか。」と考え行動をしてくれました。

○そんな中、迎えた今年度の体育会、さまざまな活動制限の緩和に伴い4年ぶりに全校開催となりました。生徒の皆さんはもちろん、勝央中での全校開催を経験した先生も少なく、不安ばかりでのスタートとなりました。しかし、夏休みからリーダーがさまざまな準備を進め、練習では、3年生の頑張り楽しむ姿が、1、2年生にも伝わりました。当日は、学年の横のつながりだけでなく、他学年との縦のつながりも加わり、勝央中学校がひとつになる瞬間を体感することができました。全校で踊った「ソーラン」、みんなのやりきった姿に、自然と涙があふれました。勝央中学校の歴史に新たな1ページを刻んだ体育会、そして、ピアサポート活動での人と人との温かいつながり、きっと1、2年生も今年度に負けない「体育会」を、そして「勝央中学校」を築いてくれることでしょう。

○そして、大きな行事や部活動を終え、それぞれのタイミングで、進路に立ち向かい、学習や生活をより良いものにするため、自分と「真っ向勝負」をする姿が随所で見られるようになりました。得意なことだけでなく、苦手なことに対しても根気強く取り組む姿、一人では達成できないことも、仲間と支え合いながら、本当に皆さんよく頑張っていました。





○そんな卒業生の皆さんの旅立ちにあたり、はなむけの言葉として、幸せになるための「4つの鉄板ルール」を送ります。私も働く、いえ、生きる上で大切にしている言葉です。

これは、講演家の中村文昭さんが、人生の師匠から教わった言葉です。八百屋の行商をしていた師匠は、中村さんに「夢はあった方がよい。でもない人は、人を喜ばせればよい。その中から、自分の役割は見てくる。」と言われ、師匠から、人生を変える4つの鉄板ルールを教わりました。その内容は①『返事は、0.2秒です。』 ②『頼まれごとは試されごと』 ③『出来ない理由を言わない』 ④『今できることを考えて動く』の4つです。普通人は、用件を聞いてそれが自分にとって損か得かを考えて返事をする。それでは、人の心は動かさない。『頼まれごとは試されごと』、不安なこともあるが、あなたに出来ないことを人は頼まない。迷わず『0.2秒で引き受けよう。』『頼まれたことに対して相手(頼んだ人)が予想していた以上のことをやって相手を喜ばせてびっくりさせよう。』そう思って仕事をするとうわくわくしてくるだろう。人にもものをお願いすると、なかには、『なぜ自分が？ 自分でなくてもいいだろう』と思いつつも言いながら仕事をする人がいる。そんなときは、頼まなければよかったと思ってしまう。『雑用』といわれるものほど『誠意』を持っていると、またこの人に頼みたい、仕事にしても、この人に頼んでよかったとなり、それが『信頼』そして『役割』となっていく。

この話を聞いた中村さんは、全身に電気が走り、バチバチっとやる気スイッチが入ったそうです。人生の中で『役割』のない人はいません。今できること・していることを、視点を変えるだけで人生というものは大きく変わっていくのかも知れません。いろいろな取組を『何のために・大切な人に喜んでもらっている場面をイメージして』そして『自分・人生の役割』を意識してみてください。相手に光を与えると、相手が輝きを放ち出す。それを見て、自分も輝きを増す。師匠は、『他人を光らせる人が自分を光らせる』と教えてくれたそうです。そんな思いを心の片隅に、4月からの新しいご縁・素敵な出会い多き人生を歩んでください。

○保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠に
おめでとうございます。中学校の三年間は、多
感な時期で、悩みも多く、心配の種は尽きなか
ったことと思います。

しかし、子どもたちは様々な困難を乗り越え、
立派に成長しました。これまでの三年間、本校
の教育活動にご理解とご協力を賜りましたこと
に、心より深く感謝申し上げます。今後は、地
域や社会の中で、それぞれの人生の役割を果た
していく子どもたちを、見守り支えてくださ
いますよう、お願い申し上げます。

また、三年間、勝央中学校の教職員一丸とな
って、子どもたちの成長を見守りつつ、精一杯
努力したつもりではありますが、いたらない点
もあったと思います。それにもかかわらず、私
たちにお寄せくださいましたご理解とご協力に
対して厚く御礼申し上げます。

○卒業生の皆さん、勝央中学校は皆さんの母校
です。輝く未来に向けて、この勝央中学校で過
ごした日々を心の糧にして、力強く、誇り高く、
羽ばたいてください。

人生は一回限りで、後戻りはできません。充実
した人生を送れるかどうかは、皆さん自身の気
持ち次第です。皆さんの前途に幸多かれとお祈
りし、式辞といたします。

令和6年3月12日

勝央町立勝央中学校長
浦 島 毅



表 彰 (3年生分)

岡山県中体連優秀選手	
サッカー	中島 聡太
美作地区中体連優秀選手	
剣道	小倉 紗奈
サッカー	丸尾 玲哉
サッカー	深草 衣吹
サッカー	新免 悠雅
柔道	森岡 碧斗
美勝英支部中体連優秀選手	
ソフトテニス	坂元 瑞生
ソフトテニス	佐古明日香
ソフトテニス	岩崎 真子
サッカー	新免 悠雅
サッカー	赤木 優斗
サッカー	深草 衣吹
バスケットボール	名部 萌夏
バスケットボール	福島 奏菜
剣道	小倉 紗奈
柔道	森岡 碧斗
陸上	片山 琉楓
陸上	黒藪 小春
陸上	鳥家 心晴
赤堀奨励賞	
野球	神田 凌風
野球	則本 流句
野球	潮永 真慈
野球	富田 秀祐
陸上	濱田 暁良
陸上	小林 優衣
サッカー	永幡 快士
ソフトテニス	廣幡日真莉
ソフトテニス	篠田 侑希
ソフトテニス	藤岡 大和
ソフトテニス	清水 颯大
ソフトテニス	二宮 岳琉
バレーボール	久保 風果
バレーボール	丸尾 彩心
バレーボール	廣瀬 由奈
バレーボール	山本 結菜
勝田郡工美術審査会	
特選	神田 琴美
準特選	佐古明日香
準特選	福井 心絆
準特選	丸尾 彩心
県下書き初め展覧会勝田支部審査	
銀賞	福井 心絆
銅賞	佐古明日香
入賞	名部 萌夏